

The Process of Strategic Mission ～ 戦略的宣教のプロセス

福音伝道を行う時に、私たちは即効的な方法ー大きなインパクトを与える単独のイベントやプログラムーを求めがちです。

主は私たちの生涯を共に歩いてくださいます。そして効果的な宣教は、長い時間と多くの祈り、そして沢山のアイデアやプログラムが必要です。使徒パウロはコリント人への手紙の中で、このことを力説しています。この時コリント人たちは、誰が本当のリーダーかという事で争っていました。パウロは、人はそれぞれ主の御国において与えられた役割があるということ、しかし、最終的に働かれているのは主ご自身であるということを描き出しているのです。

私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。それで、たいせつなのは、植える者でも水を注ぐ者でもありません。成長させてくださる神なのです。(I コリント3:6-7)

1960年代後半、シドニーの郊外である若く熱心な伝道者が、彼らが行ってきた宣教活動について何が効果的であったか、時間をとって見直してみました。静まって主の御心をまっすぐに求め直した結果、宣教活動が、ただのイベントではなく真に効果的なものになるには、いくつかの重要な要素があることが明確になりました。それらの要素は時間と経験と対話により明確にされ、現在は「戦略的な宣教のプロセス」(The process of Strategic Mission)と呼ばれるものとなりました。

Commitment to Mission 宣教への献身

効果的な宣教活動は、献身(その働きに深く関わる決心)から始まります。多くの宣教活動が上手いかわからないのは、単純にその働きに長期間関わる決心が不足しているからです。

ジョン・マックスウェル John Maxwell はこう言っています。

「この働きに献身する以前は、躊躇があり、常に後退しがちでした。しかし、自分自身が本当に献身した時に主も動かれ、一連の出来事が吹き出すように起こりました。私が決心した瞬間から、予知しなかった出来事、出会い、働き人、物的援助、夢にも思わなかったこれら全てのことが私に向かってやってきました。」

初代教会には地名が名付けられていることをご存知でしょうか。それは初代教会がその地域に植えられ、その地に関わる決心がなされていたからです。献身は非常に重要ですが、それは宣教プログラムやアイデアに対するものではなく、その地域と人々に対するものでなくてはなりません。

地域とその人々に対する献身により、宣教活動は場当たりのではなく戦略的なものになります。オックスフォード英語辞典によれば、「戦略(strategy)」とは「ある特定の長期的目標を達成するためにデザインされた計画」です。ここでいう長期的目標が、福音宣教に欠けていることがよくあります。長期的目標が欠けているために、宣教活動が成功か失敗か査定することが難しいのです。

宣教は地域とその人々を自分自身の心の中に受け入れることから始まるプロセスであることを理解するなら、創造的な宣教を行うことが唯一の選択肢となります。

そして、主があなたを召された地をはっきりと理解することから始まります。主があなたの心に示されているのは誰ですか。その人たちのために献身する準備はできていますか。

1. 祈り

効果的な宣教活動は、主イエスに導かれ、聖霊によって力が与えられます。

この社会を変革しようとする時、最初のステップは常に祈ることです。使徒の働き1章14節(この人たちは、婦人たちがイエスの母マリヤ、およびイエスの兄弟たちとともに、みな心を合わせ、祈りに専念していた。)から、初代教会がしたこと全ては祈りが土台であることがわかります。祈りのない宣教活動は空虚な行動主義にすぎません。

私たちの地域に対する主の御心を求めるということは具体的にはなにをすることでしょうか。それは祈る決心をすること、そして周りの人たち祈りを要請することです。「主よ、このコミュニティに関して何と語っておられますか?」と尋ね求めることです。

それは、主の御心を痛める事柄について私たち自身も心を痛めることです。そうすることであなたは一層祈るようになるでしょう。主に対して語り続け、「これはどうしましょうか?」と問い続けましょう。主からの促しと祈りなしに「良い」活動をしようとするのには大きな危険がともないます。

彼らが主を礼拝し、断食をしていると、聖霊が、「バルナバとサウロをわたしのために聖別して、わたしが召した任務につかせなさい」と言われた。そこで彼らは、断食と祈りをして、ふたりの上に手を置いてから、送り出した。(使徒の働き13:2-3)

宣教活動のための祈りには以下のような例があります。

- 週1回の朝禱会
- 祈りの課題を地域教会に配布する
- 祈りながら地域を歩く「祈りの歩行」
- 祈りのカレンダー
- 徹夜祈禱
- 連鎖祈禱
- 断食の祈り
- 定時的な祈り

2. リサーチ

地域の痛みや苦しみの現実を直視し、主がすでに始められていることを理解する働き。

私たちクリスチャンは、質問の意味を十分に理解せずに答えを出すことが多々あります。使徒の働き17章16-17節では、パウロはアテネに着いた時、早急には語らずまず町を歩いています。そしてそこで見たものに深く憤慨します。ネヘミヤは働き人を雇い仕事に着手する前に、時間をかけて自分がなすべき仕事の現状を十分に理解しました。リサーチすることで、私たちは「この地域に暮らす人たちが本当に必要としていることは何か。」という事実が突きつけられます。

リサーチには様々な方法がありますが、究極的には聞く耳を持つことです。デートリッヒ・ボンホファー Dietrich Bonhoeffer はこう言っています。

「長い時間辛抱強く聞くことが出来ない人は、的外れな話をするようになる。残念なことに本人はそれに気付かない。」

リサーチにおいての3つの重要な質問は、

- この地域にはどのような痛みや苦しみがあるか。
- こうした問題を解決するため、主がこの地域に与えられている人材・物的資源は何か。
- 主が既に始められている働きは何か。地域教会に主が既に与えられているビジョンは何か。

さて、アテネでふたりを待っていたパウロは、町が偶像でいっぱいなのを見て、心に憤りを感じた。そこでパウロは、会堂ではユダヤ人や神を敬う人たちと論じ、広場では毎日そこに居合わせた人たちと論じた。(使徒の働き17:16-17)

そこでパウロは、アレオパゴスの真ん中に立って言った。「アテネの人たち。あらゆる点から見て、私はあなたがたを宗教心にあつい方々だと見ております。私が道を通りながら、あなたがたの拝むものをよく見ているうちに、『知られない神に』と刻まれた祭壇があるのを見つけました。そこで、あなたがたが知らずに拝んでいるものを、教えましょう。(使徒の働き17:22-23)

一度リサーチが始まれば、どんな働きが有効かそうでないかがすぐに明らかになります。この後の章で紹介するプログラムのいくつかは役に立つでしょうし、そうでないものもあるでしょう。あなたが働こうとしている特定のコミュニティに合うプログラムが開発されていない時は、まったく新しいプログラムを作り出す必要があります。リサーチこそが宣教活動を効果的なものにするのです。

リサーチを公式に始めることは、新しいネットワークを作る素晴らしい方法であり、合理的であり、新しい活動の基礎を作ります。

地域社会や人々を理解するために使われている次のような方法があります。

- 地域の指導的立場にある人々を訪問する
- 中学・高校生を対象にしたアンケート
- 教会のメンバーを対象にしたアンケート

- 国勢調査、自治体等が実施した調査など、開示されている情報の収集
- 地域のイベント等に参加し、参加者に地域に対する意見を書いてもらう場を設ける。自分の町の好きなどころ、将来の希望など。
- 地域で活動するボランティア団体との対話
- 地域社会の必要を分析した既存の資料

3. Broad Legitimate Contact 地域との幅広い信頼関係

使徒パウロは、地域と地域の人々という視点に立って考えました。彼は大きな視野を持っていました。一対一の伝道自体は何も悪いことではなく、むしろ多くの場合に重要です。しかし地域社会全体の変革を求るのであれば、より大きな視野を持つ必要があります。

幅広い：限定せずに、大きく考える。どうしたらより多くの人に届くことができるか。

信頼：地域とそこに住む人々から、あなた自身とあなたがしている働きへの信用を得る。

関係：実際的な人間関係を構築する。

新約聖書の時代、ユダヤ人は地域の会堂(シナゴグ)を信頼していました。いつもパウロが町に入って最初にするのは、会堂に入って人々と話すことでした。その理由は、会堂において何が正当か決められていたこと、そして影響力のある人々が集う場であったことです。使徒の働き19章8-10節で、パウロは会堂から追い出されツラノの講堂へ行きました。講堂は幅広く深い人間関係を持てるもう一つの場でした。

どの社会にも、幅広く深い人間関係を築きやすい場があります。西欧社会では、例えば地域の学校やメディアに関わること、発展途上国では地域の指導者と会うことが良い方法かもしれません。

Open Crowd Festivals も、幅広い信頼関係を作るとも良い方法です。来場する全ての人々が、何かしらの人間関係を持っています。彼らがこのフェスティバルを楽しめれば、参加しなかった友人・知人にもこのフェスティバルのことを話すでしょう。300人が参加するフェスティバルが1000人に影響を与えることもあり得るのです。良いフェスティバルは御国の扉を大きく開きます。当日どんなことが起こるかということだけでなく、フェスティバルの後何が起こるか、ということも重要です。良いフェスティバルは教会が地域と関わるきっかけとなります。

幅広く深い人間関係を作るためのいくつかの方法を紹介します。

- Open Crowd Festivals
- 学校の休み時間に行うプログラム
- 演劇、ミュージカル
- コミュニティ・バーベキュー
- 地域のラジオ番組
- 自治体との朝食会：教会がしていることをより多くの人々に知ってもらう。
- リサーチの成果の発表

4. ロールモデル(見本の提示)

効果的な宣教の働きの要は、主イエスが従う生き方を、あらゆる場面で常に示すことです。

言葉と行動が矛盾していれば、周りの人々はあなたを信頼できません。本当に地域社会を変革するためには、信仰を語るだけでなく、信仰に生きることが求められます。

使徒の働き2章47節に「主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった。」とあります。彼らは人々の善意を大いに喜んでいました。初代教会が急速に成長したのは、人々が具体的に隣人を愛したからでした。ロールモデル(見本を示すこと)とは、地域の人々がクリスチャンの生き方の中にその信仰を見出すことです。それはクリスチャンが日常生活の中でキリストの証人として生きることです。私たちクリスチャンは、良い時も悪い時もその行動を見られているのです。

使徒パウロは見本/ロールモデルの重要性を理解していました。

私がキリストを見ならっているように、あなたがたも私を見ならってください。(I コリント11:1)

兄弟たち。私を見ならう者になってください。また、あなたがたと同じように私たちを手本として歩んでいる人たちに、目を留めてください。(ピリピ3:17)

同じように、若い人々には、思慮深くあるように勧めなさい。また、すべての点で自分自身が良いわざの模範となり、教えにおいては純正で、威厳を保ち、(テトス2:6-7)

フェスティバルの長所は、人々がキリスト教について聞くだけではなく、クリスチャンの行動を見ることが出来る点です。フェスティバルは、来場者と教会が、通常とは異なる人間関係をもてる場です。それは次の2つのものを作り出します。一つは御国の雰囲気、それは来場者がいつもと違う人間関係を持つことができる場で、すぐに笑いがおこるような、気楽で自由な雰囲気です。もう一つは人々が容易に会話を始められる環境です。こうした良好な人間関係は、フェスティバルの収穫の一つです。しかし、人間関係をつくるということと見本を示すことは別です。それは、フェスティバルなどのイベントにより始まった人間関係を通して、何が示されるかということなのです。

良好な人間関係が築かれる場の例

- 工作の会(カード作り、手芸、模型など)
- 幼児の遊びの会
- ユース・カフェ
- ビジネスマンの朝食会
- コミュニティ・センター
- 読書会
- 討論会
- 地域のバーベキュー
- 地域のスポーツの集まり
- 地域の慈善団体やスカウトなどへの参加
- 乳幼児を持つ母親のグループ
- 子育て世代のグループ
- 英会話教室

5. 福音の真実を伝える

初代教会は定期的集まり、使徒たちによる学びがありました。実践を伴わない教えは問題ですが、教えなしに生きることもまた問題です。

使徒の働き11章25-26節から、パウロが1年間アンテオケに滞在し多くの人々を教えたことがわかります。これがパウロの働きの始まりでした。

教育とは、日常生活のあらゆる場面であなたがどのように信仰によって生きるかを伝えることです。フェスティバルはこのようなことを教えてくれません。イエスが誰であるのか、何をしてくださったのかを、どこかの段階で人々に伝えなければなりません。私たちは、人々が信仰の最初のステップを踏み出すために必要のある全ての知識を、教えることができなければいけません。

アルファコースも役に立ちますが、誰かをコーヒーに誘って話すのでも良いのです。どんな機会・場所であれば、人々は本当に尋ねたい質問を、心を開いて話すことができるでしょう？

福音を語るために用いられやすい方法には以下のようなものがあります。

- アルファコース
- 聖書の学びの会
- 普段礼拝に来ない人たちが入りやすい集会
- 信仰書など、書籍のプレゼント
- 映画「ジーザス」鑑賞会

6. 決心の機会



人間関係そのものに時間や神経を使い過ぎてしまい、その人がイエスを知るチャンスを逃してしまうという危険もあります。しかし初代教会においてはそのような問題はなかったことが以下の聖句からわかります。そこでペテロは彼らに答えた。「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。なぜなら、この約束は、あなたがたと、その子どもたち、ならびにすべての遠くにいる人々、すなわち、私たちの神である主がお召しになる人々に与えられているからです。」(使徒の働き2:38-39)

戦略的な宣教の最初の5つのステップは、この第6のステップのための準備です。このステップだけが福音伝道だと理解する人が多いのですが、実際はこれまでの全ての段階が一つの伝道の働きなのです。私たちは、人々がどのような反応をするか心配しすぎて、その人が次の段階へ進む機会を与え損ねることがあります。これまでの戦略的な宣教の段階が順調に進んでいれば、その中のおよそ1/3の人々は、福音のメッセージに対して明確に応答する準備ができています。再度言いますが、これはフェスティバルの場で起こることではなく、フェスティバルの機会で強く作られた人間関係を土台とするフォローアップ・プログラムの中でしばしば起こることです。

信仰の決心を導く機会として良く用いられる機会は、以下の通りです。

- ユースグループ、特にその日帰りイベント。
- クリスマス礼拝、イースター礼拝
- 工作の会や朝食会で、信仰へ導かれた証をする。
- アルファコース
- 特別伝道集会
- 教会で行われる、家族対象の伝道集会

7. 賛美の場への迎え入れ

効果的な宣教の働きにより、人々は地域教会の健全なメンバーとなることができます。

ジョエル・オースティン Joel Osteen はこう言っています。

「教会に仕えているがキリストには仕えていない、ということはありません。キリストに仕えながら教会には仕えない、ということはありません。」

ドウエイト・L・ムーディ Dwight L. Moody はこう言っています。

「キリストの僕にとって礼拝に出席することは、病人に健康で豊富な血液を輸血するのと同じくらい不可欠なことだ。」

戦略的な宣教の働きと弟子訓練の中で、地域教会は鍵となる存在です。教会が真に地域から必要とされている教会であるためには、いくつか不可欠な条件があることが、過去の経験から判ります。

受け容れる(Integration): 週ごとの行事に足を向けることと、グループの一員になるということは全く違います。宣教が実りあるものであるためには、人々が地域教会の一員として迎え入れられる必要があります。

地域(Local): 家庭での聖書の学びや日曜礼拝の時だけでなく、普段の買い物や図書館、バス停、公園などで顔を合わせる時にお互いに交わりを持つことが重要です。人間関係は、教会のプログラムを超えたつながりを必要とします。

礼拝と賛美(Worshipping): 悲しいことではありますが、全ての教会がイエス様を礼拝することに重点を置いているわけではありません。ビジネス、各種プログラム、カリスマ的な牧師などが教会の中心になっている所もあります。地域の人々が、イエス様を愛する群れの中で居場所をみつけた時にのみ、宣教は本当の実を結ぶのです。

コミュニティ(Community): コミュニティの基準は、自分や他の人たちが、ありのまま受け入れられているかどうかです。真に健康的な教会は、主イエスに在る人々のコミュニティです。ただの週ごとの集まりではコミュニティとはいえません。

これらの全てのことがあてはまれば、地域の人々は教会に行きたくなくなります。これに当てはまる教会がなければ、現存の教会を変革する努力をするか、このような文化のある新しい教会を開拓するかです。

私たちの大きなチャレンジの一つは、今まで経験したことのない「教会文化」へ足を踏み入れなければならない人々の手助けをすることです。地域教会がこれまでの戦略的宣教の各段階を実践しているのであれば、人間関係の土台が既に作られるため、このチャレンジは容易に克服できるでしょう。

これまでに、キリストの御体である教会の中に人々が居場所を見つけることを助けた方法に以下のようなものがあります。

- ユースグループの日帰り旅行
- アルファコース
- 家庭集会、聖書の学びの会
- イベントなどで知り合った人たちと一緒に礼拝に参加する
- 地域の新聞に公告をだす
- ウェルカムパック
- クリスマス礼拝やイースター礼拝
- 歓迎的なウェブサイト
- 家族連れでも参加しやすい、フレンドリーな礼拝

8. 地域や世界に対する主の御計画の中で自分の役割を見つける

これは、ここまでのステップが循環となる段階です。私たちが宣教活動の中で自分の役割を見つけるのと同様に、新しく救われた人々も宣教活動の中に自分の役割を見出せるよう手助けする必要があります。

宣教のゴールは、人々が地域教会の群れの中に居場所を見つけることではなく、教会のサポートと励まし、祈りによって、主が自分自身に与えてくださった目的を見つけることなのです。

エペソ人への手紙 2章10節は、私たちが主の被造物であり、キリストの良き業を行うために前もって準備され造られたものであることを思い出させてくれます。

私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。(エペソ 2:10)

地域教会の良いメンバーで積極的に教会の奉仕をしているけれど、主がその人たちのために計画されていることはまだ見つけていない、という人はたくさんいます。

これまでに、主が用意された人生の目的を見出す機会となった方法には以下のようなものがあります。

- 体験的な宣教旅行
- 国際的な宣教会議への参加
- 教会での各種講演会
- 国内外の宣教地で活動する人たちへの支援活動
- 社員が職場で主の働きをおこなうための指導
- 与えられた賜物、霊的賜物を生かすことを応援する

全てを結合する

一つの働きだけで地域社会を効果的に変革することができないのは明らかであり、クリスチャンは様々な活動を行っていますが、問題はこうした活動同士に有効なつながりがないことです。

戦略的な宣教の働きとは、単に人々の質問に応えるためのプログラムを実行することではなく、それらのプログラム同士のつながりを強めることです。

これは例えば以下のような実例があります。

- フェスティバルが祈りのグループに支えられ、フォローアップ・プログラムとして手芸クラブ、遊びのグループ、キッズ・ゲームなどに人々があたたかく招かれている。
- 手芸クラブやビジネス朝食会に来る人たちがアルファコースへ参加を勧められ、そこから家庭での聖書研究会に誘われる。
- 祈りの会では地域社会の祈りの課題を把握し、積極的に地域のために祈る。

- フェスティバルに来場した青少年が次回のフェスティバルの運営チームへの参加を勧められたり、教会のユースグループやユースキャンプに招かれ、継続的な関係作りのきっかけを持つ。

現在の宣教活動の実りが少ないと感じられる場合、新しい働きを始めることは必ずしも必要ではなく、既に主が始められた働きを意図的につなげるだけで状況が改善することも大いにあり得ます。

まとめ

宣教の働きがプロセスであるという本質が見え始めることで、別のことが明確になってきます。それは地域社会に変革をもたらすために「これが正しい」と言える方法はないということです。

正しい答えが全て書かれている本もありません。

あなたが活動する地域の必要を全体的確に指摘してくれる外部からの専門家もいません。

宣教の働きが効果的なものとなるためには、あなたが関わる地域とそこに住む人々の心の中に主が訪れるという目標を持って、私たちが献身すること、創造的であること、そして主と共に喜んで歩くことが大切です。

【内容確認の質問】

主があなたに与えられている個人的な使命は何ですか？

あなたが主からの重荷を感じるのはどんな人々ですか？

あなたが置かれている立場で、(ここで学んだ)8つの項目のうちの何が潜在的欠陥として目にとまりましたか？

あなたが置かれている場所で既に主がはじめられたそれぞれの働きをつなぐために、どんな工夫ができますか？